

2013  
2015  
2/18

# 府職の友

発行所/大阪府関係職員労働組合  
〒540-0008 大阪市中央区大手前2-1-59  
電話 06(6941)0351・内線3740  
直通06(6941)3079 FAX06(6941)4541  
Eメール info@fusyokuro.gr.jp  
URL/http://www.fusyokuro.gr.jp  
発行人/有田 洋明 編集人/樋口 浩之  
(一部10円)組合員の購読料は組合費に含まれています。

## 2015春闘学習決起集会

3月5日(木) 19時開会  
大阪府社会福祉会館5階ホール  
▶情勢学習  
「[大阪都]構想・住民投票をめぐる情勢」  
講師:中村正男さん

### 大阪府・市地方自治研究集会 分野別集会

## 府政・市政まるごとウォッチングツアー

「夢咲トンネル」  
無人島への海底トンネル、総事業費1060億円。

「なにわの海の時空館」  
もともと船舶や海運、海洋をテーマとする大阪市立の海事博物館、2006年に指定管理者制度に移行、2013年に閉館。



咲洲庁舎展望台から夢洲を臨む

「夢洲」  
「テクノポート大阪計画」で人口6万人の居住機能を想定し、咲洲、舞洲と並んで埋め立てられた人工島。バブル崩壊で計画が破たんし、次はオリンピック招致のための選手村候補地とされたが、これも失敗に終わっている。関西財界はここに「IR(統合型リゾート)」をつくる計画を打ち出し、カジノ予定地とも言われている。

635億円かけた世界初の浮体開閉式の「夢舞大橋」1回開閉するのに約100万円の経費が必要とも言われている。

# 大規模開発・イベントより住民生活密着の府政・市政を

2月11日、大阪府・市地方自治研究集会の分野別集会の1つとして「府政・市政まるごとウォッチングツアー」が開催され、府・市職員と住民41名が参加しました。中之島に集合し、リニエール工事中の中之島図書館の外観を見学し、府職労教委支部の袋井支部長より、住友家の寄附で図書館がつけられ111年の歴史があり、大阪市資料やビジネス支援を中心に機能を果たしていると説明がありました。橋下市長の「図書館はいらない」発言により廃止も検討されましたが、住民共同の運動で阻止したことも報告されました。

バス内では大阪市労組の中山副委員長が、大阪市のベイエリア開発が「テクノポート大阪計画」によってすすめられてきたことが報告されました。

ベイエリア開発よりも災害に強いまちを  
咲洲庁舎では、府職労土建支部の渡部支部長が、



咲洲庁舎の実情を報告する土建支部の渡部支部長



神崎川の防潮堤補強工事

高潮・津波対策が重要であることも強調しました。  
ダム事業とセットですすむプロジェクト  
彩都(国際文化公園都市)と箕面森町(水と緑の健康都市)では、箕面整備事務所の西尾さん(府職労土木現場支部)より、開発の規模や現状などが詳しく説明されました。

2つの開発は、どちらも国のダム建設事業と並行してすすめられ、箕面森町は当初6千戸(1万6500人)のまちを想定し、その後2900戸(9600人)に事業縮小しました。が、今でも647世帯の入居しれないとの報告がありました。

思いっきのトップダウンでは失敗  
ツアーの最後は、大川河川敷の「ふれあいの水辺都島区」を見学しました。当時の橋下知事と建築家の



彩都、箕面森町などについて説明する箕面整備事務所西尾さん



広大な空き地の残る箕面森町を見渡す

安藤忠雄さんが「中之島で泳ぎましょう」と意気投合し、整備がすすめられましたが、公衆衛生研究所や大阪環境科学研究所などの調査で、水質に問題があることが指摘されました。

今回のツアーは、府政・市政の一部を直に見て、説明を聞き、大規模な開発やイベント中心の行政ではなく、住民の安全・安心を守り、生活に密着した行政こそが必要であることを再確認できるとりくみとなりました。



水辺の癒し・くつろぎ空間をめざしてつくられた大川の河川敷(都島区)

## 遊歩道

文部科学省が1月29日に発表した「平成25年度公立学校教職員の人事行政状況調査について」に対しての全教の書記長談話「文科省は教員を病気休職に追い込まない施策こそすすめるべき」を目にしました▼2013年度の教員の病気休職者数は8408人、うち精神疾患は5078人と6割を超え、約6割の水準が9年連続しており異常な事態です▼「精神疾患による休職発令時点での所属校における勤務年数」を見ると、精神疾患全体の48.3%が赴任後2年未満に休職に入っており、管理強化と多忙が常態化するもて教員が分断され、孤立化がすすんでいることを示すものではないかと指摘しています▼子どもたちは敏感です。私の子どもの担任が突如、辞めてしまった時には、そのことをどうこう言うわけではないのですが、精神的に不安定になっているように感じました▼病気休職の背景にある恒常的な長時間過密労働の根本的な是正が必要であり、仕事のやりがいでもある子どもたちと直接ふれあう時間を増やしていくことが重要だと思います。私たちの職場でも同じことが言えるのではないのでしょうか。(M)